

平成二十四年九月定例会 観光戦略特別委員会委員長報告

十八番 三井 経光でございます。

私から、観光戦略特別委員会の中間報告をいたします。

本委員会は、昨年十月に設置され、本市の恵まれた観光資源を活用した観光戦略について調査研究を行っております。

市では、昨年十月に策定した新一千二百万人観光交流推進プランに基づき、観光客の増加と滞在時間の延長を目指して取り組んでおりますが、平成二十七年に予定されている新幹線の金沢延伸と善光寺御開帳が大きな転換期になると考えます。

長野新幹線の延伸は、長野駅が通過駅になるとの懸念もありますが、北陸・関西方面から本市へのアクセスが向上することから、観光客を迎え入れる大きなチャンスであります。新幹線延伸を観光客を増加させる好機と捉え、積極的に対応していくことが必要であります。

こうした状況の中、委員会では、理事者の取組状況などを調査するだけでなく、観光に携わる民間の方を二回にわたり参考人として招致し、民間の視点からの課題などについても調査いたしました。併せて、行政視察も行い、各市の先進的な取組も視察してまいりました。

委員会での調査研究や先進地視察による成果などを踏まえ、本委員会として、新幹線の延伸を見据えた観光戦略として、次のことを提案申し上げます。

初めに、ソフト面での取組について五点提案いたします。

一点目は、広域観光、滞在型観光への取組と周辺自治体との連携であります。

行政視察で伺った熊本市では、九州新幹線の全線開業に伴う観光戦略として、熊本駅を拠点とした広域観光、滞在型観光の先進的な取組を行っております。

新幹線が金沢まで延伸した後は、沿線自治体や周辺自治体との連携が重要であると考えます。本市と集客プロモーションパートナー都市協定を締結している金沢市、上越市を初め、協定を新たに締結する予定の富山市など、新幹線沿線の自治体との連携を強化し、より効果的な集客活動を行っていかねばなりません。

信州・長野県観光協会では、県内の新幹線駅を中心とする域内に滞留型ミニ観光圏を形成し、経済効果等の創出を図ることを目的とした新幹線停車駅観光ハブ化事業に取り組んでおり、本市も構成メンバーであります。

より一層、沿線自治体や周辺自治体との連携を密にし、本市を拠点とした広域観光、滞在型観光の更なる推進を求めます。

二点目は、新たな観光資源の掘り起こしであります。

新幹線延伸に伴い、長野駅で途中下車する観光客も増えることが予想されます。本市に立ち寄ってもらうため、途中下車してみたくなる観光資源の掘り起こしが必要で

あります。

市内には、パワースポットを初めとして、まだ十分に生かされていない観光資源がたくさんありますので、新たな観光資源の掘り起こしを提案いたします。

三点目は、人材の育成と活用であります。

庁内には、観光行政にたけた職員、そして専門知識や遊び心を持った職員がおります。職員の適性を見極めた上で、こうした人材を積極的に登用すべきであり、観光行政のスペシャリストも育成していかなければなりません。

さらに、市民の人材育成も必要と考えます。委員会では視察した長崎市のまち歩き観光の「長崎さるく」は、市民ボランティアの力を生かしていることで有名であります。

本市でも「長崎さるく」を参考にし、市民ボランティアの協力を得る中で、先頃、善光寺表参道ガイド協会が設立されました。また、松代や篠ノ井でも観光ボランティアが活躍しております。

こうした地域の観光ボランティア活動を積極的に支援し、人材を育成していくことを提案いたします。併せて、観光戦略は、専門家の視点によるマネジメントが必要でありますので、この度招へいたした中心市街地誘客事業戦略アドバイザーを積極的に活用していくよう提案いたします。

四点目は、観光戦略室の主体性の発揮であります。

今年度、観光振興課に新設された観光戦略室は、新幹線の金沢延伸に向けた取組を特命事項として、特に、関西、北陸など新たなターゲットエリアに関するマーケティング調査や誘客プロモーション活動などに取り組んでおります。

新幹線延伸に向け、観光戦略室が更なる主体性を発揮しながら、国内誘客、そしてインバウンドにも取り組んでいくことを要望いたします。

五点目は、新たな情報発信媒体の活用であります。

現在、世界中の多くの人々が、フェイスブックなど新たな情報発信、情報入手の媒体として、ソーシャル・ネットワーキング・サービス、いわゆるSNSを利用しております。これらを活用した観光情報の発信は、今の時代、大変有効な手段でありますので、積極的に取り組むよう提案いたします。

次に、ハード面での取組として、長野駅に関連することを二点申し上げます。

一点目は、長野駅善光寺口駅前広場整備事業であります。

市では、平成二十七年三月の完成を目指し、長野駅善光寺口駅前広場の再整備を進めております。

長野らしさがあふれる魅力的な駅前広場となり、長野の存在感を全国にアピールするとともに、本市を訪れた人々の心に残るものとなるよう大いに期待するものであります。

二点目は、長野駅東口のバス待機場等整備事業であります。

本件については、昨年十二月定例会で行った中間報告でも申し上げましたが、観光客をお迎えする玄関口の利便性が向上するよう、早急な整備を求めるものであります。

最後に、新幹線の呼称問題について申し上げます。

本委員会は、新幹線の金沢延伸後の呼称が、本市の観光戦略に大きな影響を及ぼすとして、新幹線の呼称に長野を入れ、列車名にあさまを残すことを目指しております。

長野市長が会長を務める県内沿線市町村で作る連絡協議会は、七月末、長野県知事に長野の呼称とあさまの名称を残すことなど求めた提言書を提出いたしました。

このような中、先頃、列車名あさま存続の見通しとの一部報道がありましたことから、呼称問題については、一区切りついたものと考えております。

終わりになりますが、新幹線延伸まで、あと二年半となりました。

千載一遇のこのチャンスを生かすため、残された時間の中で、一つ一つ着実に取り組んでいくことを切に望みまして、本委員会の間接報告を終わります。